

お隣・長瀨町でも…
句碑巡りをお楽しみ頂けます!



1 総持寺
ぎらぎらの朝日子照らす自然かな
[所在地:長瀨町本野上924]
総持寺は秩父七福神(福祿寿)の寺で、本尊の文殊菩薩は開期した法燈国師の自影自作と伝わる。境内には金子兜太の墓がある。

2 長生館
猪が来て空気を食べる春の峠
[所在地:長瀨町長瀨449]
長生館は大正4年に創業、どの客室からも「長瀨渓谷・岩畳」を望むことができる。ここには高浜虚子の句碑、若山牧水の歌碑もある。

3 洞昌院
舞うごとし萩の寺いま夕暮れて
[所在地:長瀨町野上下郷2868]
洞昌院は秋の七草「萩」の寺。花盛りの時は各種の萩が咲いて美しい。虚空蔵縁日は賑わっている。

4 宝登山神社
谷間谷間に満作が咲く荒凡夫
[所在地:長瀨町長瀨1828]
宝登山神社は秩父三社の一つ。金子伊昔紅・兜太・千侍(兜太・弟)父子三人の句が並ぶ。

MINANO

レンタサイクルのご案内

- 2時間 300円(電動600円)
- 4時間 500円(電動1,000円)
- 8時間 1,000円(電動2,000円)

乗捨料金 500円(電動1,000円)
乗捨場所 秩父CS、あしがくぼCS、皆野CS、長瀨CS、両神CS、小鹿野CS
お申込 直接、皆野町役場、長瀨町観光情報館にお越しください。
営業時間 (9:00~17:00) 最終受付 15:00

[皆野サイクルステーション(皆野町役場)] TEL 0494-62-1462
[長瀨サイクルステーション(長瀨町観光情報館)] TEL 0494-66-3311

NAGATORO

お問い合わせ
皆野町・皆野町観光協会[皆野町役場内]
〒369-1492 埼玉県秩父郡皆野町皆野1420-1
URL <http://www.minano.gr.jp>
mail info@minano.gr.jp
tel 0494-62-1462
fax 0494-62-2791

夏の上国
母のわかれ
千太郎

日の夕べ
天空を去
る一松かな

線路が見え
る重飼かな

兜太
吉鷹

金子兜太句碑巡りの旅

おあかみは
蟹が一っ
付いたた
が青むき
夢の枯野
よく眠る
星珠の華
秩父の子
どき腹出し



Profile 金子兜太プロフィール KANeko TOTA

大正8年(1919)9月23日に生まれる。皆野町育ちの俳人であり、皆野町名誉町民である。季語にこだわらない社会性俳句・造型論という新たな俳句論を打ち出し、俳句界に革命をもたらした。旧制熊谷中学(現・埼玉県立熊谷高等学校)を経て、旧制水戸高等学校在学中に句作を始める。昭和37年(1962)俳句誌「海程」を創刊。のちに主宰となり、昭和58年(1983)現代俳句協会会長に就任。現代俳句の巨星として活躍する中、平成30年(2018)2月20日に逝去した。



巡る 金子兜太の句碑巡りMAP

- 句碑を巡る順番は決まっておられません。時間の都合に合わせてお楽しみください。
- 私有地に設置されているものもありますので、ゴミの持ち帰りなど、マナーを守ってお楽しみください。
- 句碑巡り専用の駐車場はございません。



秩父音頭まつり(8月14日)



天空のホビー(見頃:5月中旬~6月上旬)



美の山からの雲海

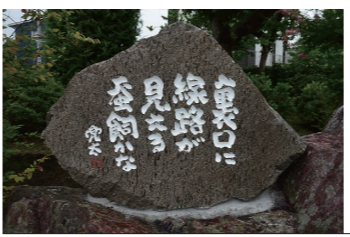
参考文献:金子兜太自選自解99句

い 旧壺春堂医院
ろ 個人宅
は 円明寺
に ヤマブ味噌蔵
ほ 棕神社
へ 秩父七福神圓福寺
と 秩父十三仏萬福寺
ち 秩父札所34番水潜寺
り 天空の里・立沢



りゅうがみ
おおかみを龍神と呼ぶ山の民
[皆野町皆野1168]
秩父音頭のメロディ・詩が生まれた地。兜太の生家。父・伊昔紅が開業した診療所。句会にもなっていた。

郷里の秩父「産土」を代表する山として日頃敬愛している両神山には、狼がたくさんいたと伝えられているが、土地の人たちが狼を龍神と呼ぶと聞いて、両神山の名もそこから決まってきたのではないかと私は思ってきた。今住んでいる熊谷からも晴れた日には台状の両神山が見える。今でもその台状の頂に狼がいる、と覚えてならない。
『句集 東国抄』



こがい
裏口に線路が見える蚕飼かな
[皆野町皆野1180]
兜太生家の裏にあたる。句のモデルと言われている蚕小屋があった場所。この付近には養蚕農家が多くあった。

青少年時代こんな風景にいつも出会っていた。ちょうど親戚の家に行ったときの句で、秩父鉄道沿いにあり、裏口に線路が見えている風景と、蚕飼が進んでいる家の中のざわついている雰囲気と。郷里の匂いがいっぱい伝わる。蚕飼は当時の秩父にとって唯一とっていい生業だった。
『句集 生長』



よた
夏の山国母いて我と与太といふ
[皆野町皆野1331-1]
昭和5年の旧盆に秩父音頭が盆踊りとして初めて踊られたお寺。ここには伊昔紅の句碑もある。

母は、秩父盆地の開業医の父のあとを、長男の私が継ぐものと思込んでいたので、医者にもならず、俳句という飯の種にもならなそうなことに浮身をやつしている私に腹を立てていた。碌でなくらいの気持ちで、兜太と呼ばず与太と呼んでいて、私もいつしかそれに慣れてしまっていた。いや百四歳で死ぬまで与太で通した母が懐かしい。
『句集 皆之』



かれの あお
よく眠る夢の枯野が青むまで
[皆野町皆野573-2]
伊昔紅も参加した味噌蔵句会の舞台。初代新井武平が伊昔紅の句碑を建立したのが始まり。

この句、出来たあとと少しして芭蕉最後の句「旅に病んで 夢は枯野を かけ廻る」の本歌取りということになるのかな、と微笑したが、作った前後には芭蕉の句は頭になかった。しかし、気付いて、八十代に近い兜太の夢と、五十二歳で没した芭蕉の求めるものへの厳しい夢の違いに恐れ入った。芭蕉は芭蕉、兜太は兜太、ゆっくり生きてゆこうの心意。
『句集 東国抄』



おおかみに螢が一つ付いていた
[皆野町皆野238]
兜太が出征時に武運長久を祈願した村社。重さ2トン以上の秩父紫雲石の句碑は町内最大。

幼少年期をそこで育った山国秩父を「産土」と思い定めてきた。ニホンオオカミが、明治の半ば頃に絶滅したと伝えられているが、産土を思うときはかならず狼が現れる。群のときもあれば、個のときもある。個のとき、よく見ると螢が一つ付いていて瞬いていた。山気澄み、大地静まるなか、狼と螢、「いのち」の原始さながらにじつに静かに土に立つ。
『句集 東国抄』



僧といて柿の実と白鳥の話
[皆野町皆野293]
平親王将門の開基であると言われている。寺に残る旧来記は、将門の実弟将平の墓と記してある。

僧との会話ものんびりしたものであったのかもしれない。日本に多くある渋柿の木。それらは取られず放置されていることが殆ど。何故自然の恵みをほったらかしておけるのか。ほったらかしにされている、つまり人間が自然の恵みに気付かない時代であることが、人間の欲というものが極端に突出した問題の遠因にあるのかもしれない。
『句集 旅次抄録』



やまかい はなかく
山峡に沢蟹の華微かなり
[皆野町皆野1807]
秩父十三仏霊場のひとつ。不動明王を祀る毎年4月29日には境内呑龍堂にて祈願縁日が行われる。

郷里の山国秩父に、明治十七年初冬、「秩父事件」と呼ばれる山村農民の蜂起があった。その中心、西谷の棕神社に集まった約三千の「借金農民」にはじまる。私には郷里の大事件として十分な関心があり、ときどき訪れたが、その山峡はじつに静かだった。その沢で出会う紅い沢蟹も。しかしその静けさが、そのときの人々の興奮と熱気を伝えて止まなかったのだ。
『句集 早春展墓』



曼珠沙華どれも腹出し秩父の子
[皆野町下日野沢3522]
百観音の大悲を一寺に集め御利益を得たいとの願いにより、水潜寺が日本百観音結願寺となった。

郷里秩父の子どもたちに対する親しみから湧くように出来た句。腹を丸出しにした子どもたちが曼珠沙華のいっばいに咲く畑を走ってゆくのに出会った時のもの。小さい頃の自分の姿を思い出したのか、と言ってくれる人がいるが、そこまでは言っていない。しかし子供の頃の自分ととっさに重なり「ああ秩父だなあ」と思ったことに間違いはない。
『句集 少年』



日の夕べ天空を去る一狐かな
[皆野町皆野立沢バス停]
この場所で作句したと言われている。「天空の里」とはまちおこしのグループが名付けた。

秩父事件の中心「西谷」は、荒川の支流赤平川を眼下に、空に向かって開けている。谷間から山頂近くまで点在する家は天空と向きあっている。夕暮れ、陽のひかりの残るその空を一頭の狐がはるばるとび去っていくのが見えたのだ。いや、そう見えたのかもしれない。急な山肌に暮らす人たちに挨拶するかのよう。謎めいて、妙に人懐かしげに。
『句集 孩童』